

ローカルファンドを考えるコアメンバー会議 令和2年度の検討内容の確認

チャレンジを
応援しあえる
地域社会

R2年度

議論する1年

R3年度

仕組みを構築する1年

R4年度

実施・施行する1年

令和2年7月27日
第1回コアメンバー会議

- ✓ 前年度までの検討を経て、**コミュニティ財団の設立を市から提案。**
- ✓ 当地域での必要の可否、設置目的も含めて今年度議論し、**その議論の結果は財団設立趣旨書に落とし込むことに。**

令和2年8月31日
第2回コアメンバー会議

- ✓ 他地域のコミ財設立趣旨書を読み、どんな判断基準が必要か話し合い
- ✓ 挙げた課題
財団の担い手の確保、目的の明確化・共有の必要性、他地域の事例収集、当地域でのニーズ等

令和2年9月28日
第3回コアメンバー会議

- ✓ 前回出た課題に事務局から情報を伝え意見交換。
- ✓ **財団設立を判断すべき時期が近い？しかし各個人の腹落ち感に差。**
- ✓ **いまだ財団の現実性が見いだせない**
- ✓ **会議の場で深められていない**
- ✓ 人がお金を出すのは、思い入れがあるかどうか。**ビジョンが重要。**

令和2年12月23日
第6回コアメンバー会議

- ✓ 市内の各種活動支援団体の活動を知るため、各団体より活動内容を伝える（NPO法人西条まちづくり応援団、SICS、一社リズカーレの3団体。）
- ✓ 各団体の目的、事業内容、強み、課題等を知る

令和2年11月25日
第5回コアメンバー会議

- ✓ 前回出た意見を深掘り。
- ✓ 取組の資金調達、寄付集め、融資（金融機関の関わり）、事業計画の立て方、情報発信、ワンストップ的なものの必要性、自立を前提としたサポートのあり方、支援側がつながるプラットフォームの構築の必要性等。
- ✓ **現状では、市内の各種活動支援団体の連携がない・そのため本当に適切な支援が出来ているのか分からない**

「財団ありき」で考えると方法論になってしまい、本質的な意義を考える議論が難しかった。

令和2年10月28日
第4回コアメンバー会議

- ✓ 「本当に必要なものとは何か」を一から考え議論を広げる
- ✓ **スケジュール：**
【R2年度は議論する⇒R3年度は仕組みを構築する⇒R4年度は実施・施行する】
- ✓ 自分たちが直面する課題解決のためにはどんなものが必要か。
 - ・自分が直接活動しなくても応援など関われる仕組み（＝地域のことを自分事として考える人の増加）
 - ・既存の枠組みでははみ出してしまうところをすくう緩和された枠組み
 - ・お金（使途が柔軟なもの、一方で使途に納得感が必要）
 - ・人をつなぐ、対話の継続・場づくり、情報を形作る仕組み等々

令和3年2月13日
第7回コアメンバー会議

- ✓ 全国コミ財協会の公募事業にメンバーのリズカーレが手を挙げ、申請にあたって情報共有を行う